

学習のつながりを工夫した 地域の伝統や文化に関する教材の開発

— 中学校社会科における広い視野で歴史を考察する力の育成を目指して —

片野 快子¹

伝統・文化に関する教育の充実が求められている中で、地域の歴史について生徒の興味・関心を高めるとい
う課題がある。本研究では、地域の伝統・文化を身近に感じさせ、広い視野で歴史を考察する力の育成をねら
いと。そこで、時間的なつながりの観点から伝統・文化の継承と発展に気付かせ、空間的な広がり
の観点から地域の歴史と日本の歴史を関連付けて考えさせる教材開発を行い、その成果を検証した。

はじめに

中央教育審議会答申（平成20年1月）によれば、グローバル化が進む社会において、異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していく資質を育むために、「自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けること」が明記され、伝統・文化に関する教育の一層の充実が求められている。

これまでの中学校社会科における伝統・文化の学習については、地域教材を活用したカリキュラムの作成や、体験活動を通して地域のよさを知る地域学習などの先行研究は見受けられる。しかし、伝統・文化に関する教材を通して、歴史を考察する力をどのように育成するかについての研究は少ない状況にある。

そこで、地域の伝統・文化を生徒に身近に感じさせ、地域の歴史と日本の歴史を関連付け、広い視野で歴史を考察する力の育成をねらいとする研究を行った。ここでは、時間的なつながりと空間的な広がり
の二つの観点から教材を開発した。

研究の内容

1 研究テーマの設定

(1) 研究の背景

平成18年12月に、教育基本法が改正された。その教育目標の一つとして「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」が新たに盛り込まれた。

このことを踏まえ、平成20年1月、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」では、教育内容に関する主な改善事項の一つとして「伝統や文化

に関する教育の充実」が位置付けられた。

このことを受けて、平成20年3月に告示された中学校学習指導要領（以下 新学習指導要領）の第2節社会において、国際社会で活躍する日本人を育てるために、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の特質に応じて、伝統や文化に関する学習を一層重視した改善を図ることになった。

とりわけ、我が国の伝統や文化の学習は、これまでも歴史的分野で特に重視されてきたねらいの一つである。新学習指導要領でも、歴史的分野の目標(1)に「我が国の歴史の大きな流れ」の理解を通して「我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」と明記されている。

また、本県でも「かながわ教育ビジョン」（平成19年8月）において、地域の魅力に基づく学びを通じて、地域の人々がそれぞれに持つ力を高めるとともに、地域での人と人とのつながり、コミュニティづくりを進めることが述べられている。

このように、地域の歴史や伝統・文化を尊重する態度を、学校教育や社会教育を通じて養っていくことが求められている。

(2) 生徒の実態

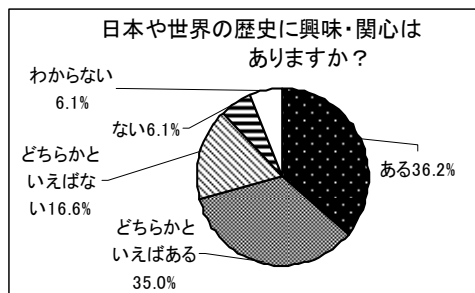
ア 所属校での事前アンケートの結果

生徒が歴史学習をどのように考えているかを把握するために事前アンケートを実施した。内容は、日本・世界の歴史と地域の歴史に対する生徒の興味・関心を比較するものである。

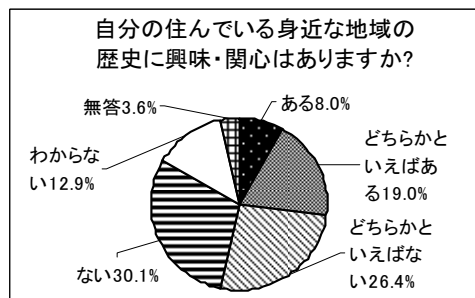
初めに、日本や世界の歴史に対する興味・関心についての質問を行った。アンケート結果を第1図に示した。5件法で肯定的に回答した生徒は71.2%であり、その理由として、「昔の出来事は具体的にどのような内容だったのか知りたい」「歴史上の人物はどのような活躍をしたのか知りたい」「今と昔の相違点や共通点をもっと知りたい」などの記述が見られた。

1 茅ヶ崎市立鶴嶺中学校

研究分野（伝統文化に関する学習 社会）



第1図 事前アンケート・質問1 (7月)



第2図 事前アンケート・質問2 (7月)

次に、身近な地域の歴史に対する興味・関心についての質問を行った。アンケート結果を第2図に示した。5件法で肯定的に回答した生徒は27.0%であり、否定的回答の理由として、「政治の中心地に興味・関心がある」「教科書に載っているような有名な人物がいない、出来事がない」「身近にどのような歴史があるのか分からない」「高校入試に関係がない」などの記述が見られた。

イ アンケートから読み取った課題

所属校での生徒への事前アンケート結果からは、生徒の学びが教科書を学ぶことにとどまっており、教科書に載っていない身近な地域の歴史に対する興味・関心に課題があることが読み取れる。このことが、身近な地域の歴史や伝統・文化の学習と、歴史的分野で扱う学習内容とを関連付けにくいことにもつながっていると考えられる。

(3) 研究仮説

歴史的分野で扱う学習内容と関連付けた身近な地域の歴史や伝統・文化に関する教材を授業の中で扱うことは、生徒の歴史認識を広げることに有効であると考えられる。そこで、新学習指導要領で求められている伝統・文化に関する教育の充実を図り、アンケートから読み取った課題を解決するために、次のような研究仮説を立てた。

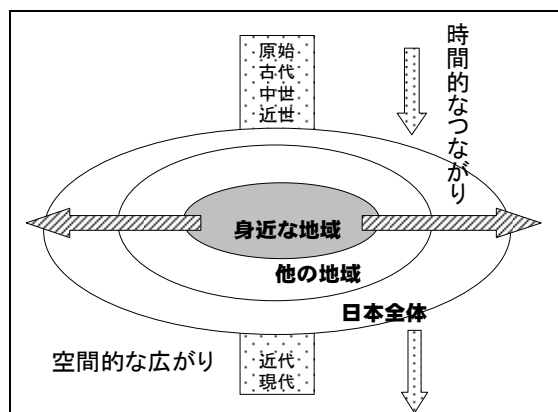
時間的なつながりと空間的な広がり観点から、地域の歴史や伝統・文化に関する教材の開発と指導方法の工夫を行えば、生徒は地域の歴史や伝統・文化に興味・関心をもつであろう。そして、それらを身近に感じ、日本の歴史との関連を広い視野で考察することができるであろう。

2 研究の方法

(1) 研究概念図

新学習指導要領の第2節社会では、基本的なねらいの一つとして、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察」することを挙げている。中学校学習指導要領解説社会編(平成20年9月)では、広い視野とは、「社会科の学習が目指している多面的・多角的な見方や考え方にかかわる意味と、国際的な視野という空間的な広がりにかかわる意味の二つが含まれている。」としている。中学校指導書社会編(昭和53年)では、社会科とは、社会的現象を空間的広がりの中で、また時間的系列の中で幅広い視野から捉えさせるための学習であると述べている。これは、現在の社会科学習の根幹に当たるものである。

これらを踏まえたものが、時間的なつながりと空間的な広がり研究概念図(第3図)である。



第3図 研究概念図

(2) 時間的なつながりの観点からの教材開発と指導方法の工夫

地域には様々な伝統・文化があり、それらがどのようにして始まり、変化し、現在に至るまで大切に受け継がれているかを生徒に理解させることが教材開発のねらいである。地域の伝統・文化への興味・関心を高める視点、継承し発展していることを把握させる視点、思いや願いを理解させる視点という三つを踏まえて教材開発を行った。

ア 伝統・文化への興味・関心を高める視点

○副読本の活用

既存資料である副読本は、地域学習を充実させるために市町村教育委員会等が発行している補助教材である。社会科学習に沿って、地域の特色、歴史、市民生活と地方自治などが簡潔に編集されている。副読本を活用して、地域の歴史や伝統・文化に関する学習を進めることにより、生徒の興味・関心を引き出しやすくなったと考えた。

○地域の伝統・文化を分類したワークシートの作成

地域に残る伝統・文化について、古い建物(住宅など)、記念物(遺跡、植物など)、美術工芸品(仏像、

絵画など)、踊りや歌、お祭りなどの項目に分類するワークシートを作成した。生徒は分類作業を通して、伝統・文化を身近なものと感じ、興味・関心を引き出せると考えた。

○地域の伝統・文化のスライド作成

地域の伝統・文化の一部をスライドにして視聴覚機器で映し、紹介した。文化財を視覚的に確認させ、生徒に興味・関心をもたせた。祭りの写真の一部は、商工会議所から借用した。

イ 伝統・文化の継承と発展を把握させる視点

○年表形式のワークシートの作成

年表は、時間の経過を把握するのに適当であると考えられる。そこで、時間的なつながりである伝統・文化の継承と発展を生徒に把握させるために、年表形式のワークシートを作成し、地域の伝統的行事や文化的行事が始まったきっかけ、その変化をワークシートに記入させた。

○新聞記事の使用

地域の人々が伝統・文化をどのように考えていたかを具体的に感じ取らせるために、過去の新聞記事を使用した。この資料を扱うことを通じて、伝統的行事が社会背景によって変化したり、新たに創造されたりしていることを把握させた。

ウ 伝統・文化への思いや願いを理解させる視点

○伝統・文化へのメッセージの使用

人が文化をつくり、文化を継承し発展させるのも人である。地域に伝統・文化が継承されているのは、大切に守り、伝えていきたいという人々の思いや願いがあるからである。山内(2008)は、ふるさとの文化財(宝)の条件として、「昔からあり、今も大切に受け継がれていたり、生活に役立っていたりするもの、人々の思いや願いが込められているもの」としている。

伝統・文化を支えている人々のメッセージを使用し、思いや願いが、地域の伝統・文化の継承と発展につながっていることを生徒に理解させた。

(3) 空間的な広がり観点からの教材開発と指導方法の工夫

地域の歴史を考えることで、歴史をより身近に感じさせ、日本の歴史との関連を広い視野で考えさせることをねらいとした。

教材を開発するためには、歴史的分野の学習で中心的に取り扱う日本の歴史と、身近な地域の歴史との接点を探ることが必要である。そのために、市役所や図書館等の公的機関を訪問し、郷土史に詳しい担当者に取材することや、市町村史誌などの文献を調べることに取り組んだ。その中で、よく知られている史実と知られていない史実とを分析した上で、その接点を探り出し教材を開発した。

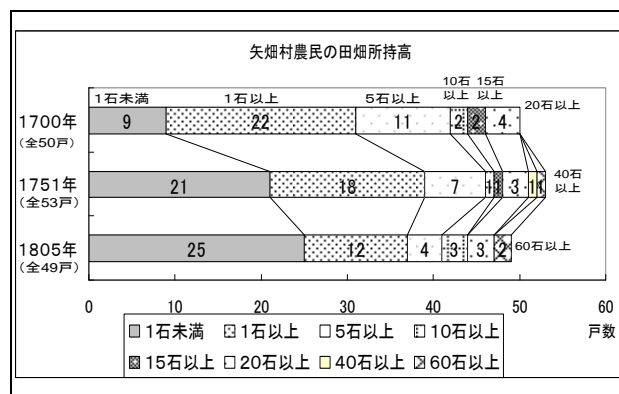
教材開発にあたり、江戸時代における地域の主要産業が農業であったという実態を踏まえ、生徒にとって

なじみの深い地域の農村の暮らしに焦点を絞った。

ア 農村の変化(貧富の差の拡大)を理解させる

第4図の教材は、地域における農民の田畑所持高の変化を表している。この資料を扱ったねらいは、田畑所持高の変化を通して、江戸時代中期の地域の農村における貧富の差の拡大を理解させることであり、日本全体で起こっていた状況が地域の農村でも起こっていたことを理解させることである。

田畑所持高の変化を分かりやすく把握させるために、帯グラフに作り直した。



第4図 矢畑村農民の田畑所持高のグラフ

イ 農村の貨幣経済の実態を理解させる

農村において貧富の差が拡大した一因として、田畑の売買が行われていたことが挙げられる。その証拠となる資料が、「相渡し申す田地手形の事」である。この資料は、矢畑村で農民が借金をするために10年という期限で一時的に自分の田畑を貸すことを約束した証文である。

この資料を扱ったねらいは、肥料などを購入するために借金をする農民が現れ、貨幣経済が地域の農村でも徐々に広がり始めた様子を理解させることである。内容を捉えやすくする工夫として、原文と現代訳したものを併記した。

3 検証授業

(1) 検証授業の概要

〈実施期間〉平成22年10月18日～10月21日

〈対象〉茅ヶ崎市立鶴嶺中学校

第2学年 5学級 174名

〈単元名〉「歴史の流れと地域の伝統・文化」

小単元 第1時「茅ヶ崎の伝統・文化 大岡越前祭」

第2時「享保の改革時の茅ヶ崎の農村の変化」

本単元は、新学習指導要領歴史的分野の「2 内容」の「(1)歴史のとらえ方」の「イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。」を受けて構

成している。身近な地域の歴史と日本の歴史との接点として大岡忠相を取り上げた。享保の改革の概略や江戸町奉行としての大岡忠相の業績などの既習事項を基に学習を進めた。

(2) 検証授業の内容

ア 第1時「茅ヶ崎の伝統・文化 大岡越前祭」

〈学習のねらい〉

- ・時間的なつながりの観点から、伝統・文化の意味と茅ヶ崎の宝（伝統・文化）を知り、興味・関心をもつ。
- ・茅ヶ崎で大岡越前祭が現在まで継承されている理由を理解する。

〈学習活動〉

生徒は、中学校地域学習副読本「私たちの茅ヶ崎」を活用しながら、茅ヶ崎の宝（伝統・文化）を古い建物、踊りや歌などの項目に分類したワークシートに記入し、話し合い活動でそれらを検討し発表した。そして、文化財の一部である旧相模川橋脚や浜降祭、大岡越前祭などのスライドを見た。

次に、地域の伝統・文化の中から大岡越前祭に焦点を当てた。初めに、江戸時代からの大岡忠相と茅ヶ崎のつながりを理解した。そして、大正時代初期に大岡忠相が贈位されたことをきっかけに大岡祭が始まり、太平洋戦争などで中断されながらも復活し、継承・発展していることを、年表形式のワークシートに記入した。昭和31年当時の復活大岡祭の新聞記事、大岡家当主のメッセージを使用した。

イ 第2時「享保の改革時の茅ヶ崎の農村の変化」

〈学習のねらい〉

空間的な広がりからの観点から、江戸時代中期における茅ヶ崎の農村の変化を理解し、地域の歴史と日本の歴史を関連付けて考える。

〈学習活動〉

生徒は、既習事項を基に、大岡忠相の業績や享保の改革の目的を確認した。江戸時代の茅ヶ崎の絵図を見て、現在の地形や地名との違いを知った。資料「矢畑村農民の田畑所持高」から農村における貧富の差の拡大を読み取り、話し合い活動を通じてまとめ発表した。次に、資料「相渡し申す田地手形の事」から、一時的な田畑の貸し借りが行われていた実態を理解した。当時の農民に適用されていた田畑永代売買禁止令には、一時的なら田畑を売ってもいいと解釈する抜け道があったことを知った。この法令と大岡忠相とを関連付け、法令の廃止について幕府に上申した大岡忠相が、日本全体のことを考えている有能な幕府の役人であったことを理解した。

(3) 授業展開の工夫

思考力・判断力・表現力等を生徒に身に付けることをねらいとした授業展開の工夫を次に示した。

ア 子どもを動かす発問

有田（2006）は、子どもを動かす発問として「思考

を焦点化する発問」「思考を深化する発問」などを挙げている。そして、授業の中核としての機能をもつ発問の重要性を指摘している。

第1時では、地域にある様々な伝統・文化から始まり、大岡越前祭で終わる授業を展開するために、思考を焦点化する発問を行った。具体的には、「茅ヶ崎の宝にはどのようなものがあるだろうか？」「茅ヶ崎には二大祭りがある。どのようなお祭りだろうか？」さらに、「茅ヶ崎でなぜ大岡越前祭なのだろうか？」という流れで、茅ヶ崎と大岡越前祭との関係に気付かせる工夫をした。

第2時では、思考を深化する発問を行った。例えば、貧富の差が地域で拡大していることを理解させた後、「田畑は売ってもいいのだろうか？」「一時的に田畑を売った農民は、借金を返すことができたのだろうか？」「田畑永代売買禁止令は、実態に合っていないから廃止した方がいいという声はなかったのだろうか？」などの発問を行った。

イ 資料の提示

資料を読み取る学び方を身に付けさせるため、読み取りの視点を生徒に説明した。具体的には、資料「矢畑村農民の田畑所持高」を読み取る視点として、グラフが大きく変化しているところを見ることや、思考・判断した内容の根拠をつかませることを生徒に働きかけた。

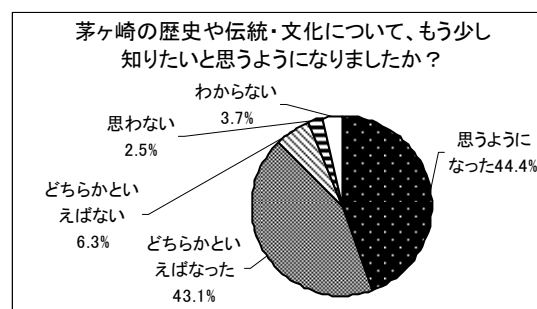
ウ 話し合い活動

検証授業では、班による話し合い活動を取り入れた。話し合い活動の流れは、初めに個人で考え、班の中でまとめ、全体に発表するという方法をとった。ねらいは、他の生徒の意見を聞くことにより、幅広い見方や考え方を知り、再思考することで広い視野で考える力を育むことである。生徒の話し合いだけで終わることのないように、授業者が学習の要点をまとめ、思考を焦点化させた。

4 授業の振り返りの分析と考察

検証授業の分析は、授業ごとの振り返りでのアンケートの集計と自由記述の内容の分析を基に行った。

(1) 第1時の振り返りの分析と考察



第5図 事後アンケート・第1時（10月）

茅ヶ崎の歴史や伝統・文化についての興味・関心の

変化についての質問を行った。アンケート結果を第5図に示した。5件法で肯定的に回答した生徒は87.5%であった。生徒は、教材開発のねらいとして設定した三つの視点について次のように記述していた。

ア 伝統・文化への興味・関心の高まり

- ・茅ヶ崎の文化がこんなに華やかだったのを初めて知りました。国で認められているようなものもあり茅ヶ崎の歴史についてよく分かりました。身近なものが実は大事だったりといろいろ気付くことができました。
- ・日本から見れば小さな茅ヶ崎だけれど何か大きなものが感じられた。
- ・自分たちが住んでいるこの町の身近なところで、どの学校でも習うような共通の歴史と関係が深いことがあったなんて驚きました。他にも調べてみたいくなりました。

イ 伝統・文化の継承と発展の把握

- ・市内の大きな祭りには「楽しく」だけでなくしっかりとした伝統を伝えていくことが大切だと思いました。
- ・今は自分たちの親が伝統などを守っているが、次は自分たちが守らなければならない。

ウ 伝統・文化への思いや願いの理解

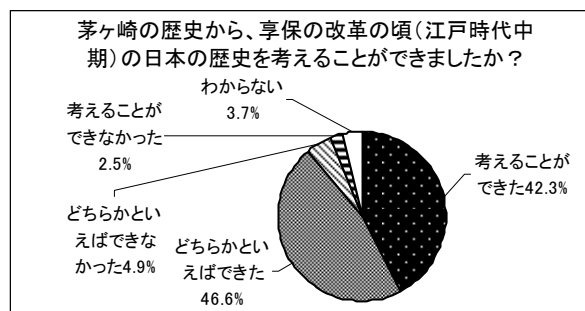
- ・祭りをやるにあたってたくさんの思いがあることを知りました。私も大切にしたいと思いました。
- ・大岡越前祭や浜降祭はいつも祖母に勧められて毎年行っています。「なんで毎年？」と思うようになっていました。でもその疑問が今日解けました。祖母は私たちに「茅ヶ崎の文化を知ってほしい」との思いで勧めていたのだと思います。

自由記述の内容を見ると、地域に歴史や様々な伝統・文化があることに気付いた、というものが多かった。地域の歴史や伝統・文化の再発見により、もっと調べたい、参加したいという関心や意欲を引き出すことにつながったと考えられる。また、伝統・文化を支えている地域の人々の思いや願いを知ることにより、大切に継承されてきた伝統・文化の重みを実感し、自分たちもそれらを伝えていかなければならないという気持ちをもつことができたのではないかと読み取れる。

以上のアンケートと自由記述の分析から、時間的なつながりの観点からの教材開発と指導方法を工夫した授業実践は、地域の伝統・文化を身近に感じさせ、興味・関心を高めることに有効であったと考えられる。

(2) 第2時の振り返りの分析と考察

茅ヶ崎の歴史と日本の歴史との関連についての質問を行った。アンケート結果を第6図に示した。5件法で肯定的に回答した生徒は88.9%であった。生徒は、教材開発のねらいとして設定した二つの視点と、全体を通してについて次のように記述していた。



第6図 事後アンケート・第2時(10月)

ア 農村の変化(貧富の差の拡大)の理解

- ・身近な地域でも貧富の差が広がったりしていたことが分かった。土地の貸し借りから貧富の差が広がったことを初めて知った。
- ・江戸時代に貧富の差が拡大し、江戸幕府が揺らいでいく理由が分かった。母方の実家は土地持ちなので江戸時代のこの時期に成功したのだろうか。

イ 農村の貨幣経済の実態の理解

- ・田畑永代売買禁止令を一時的であればよいと解釈した農民のポジティブシンキングに驚きました。
- ・土地を売って借金をするほど大変だったことが分かりました。でもまず何でお金を使いすぎたのかがよく分かりません。がまんすればいいのでは。
- ・自分は土地当たりの米の量が少なくなったから年貢を納めきれなくなり、金を借りたと思ったのですが違うのですか?例えば、グラフの60石以上の土地を持つ農民が、新田開発によって開発されたいい土地をもっていたとしたら?と思いました。

全体を通して

- ・自分の住んでいる地域から日本の歴史をたどることができてすごく面白かったです。
- ・茅ヶ崎でも教科書に載っているような出来事が起きていることが分かりました。歴史の出来事がとても身近に感じられました。
- ・茅ヶ崎を中心に考えることによって、今まで勉強してきた日本の歴史をさらに身近に感じることができました。グラフから予想し、自分の考えや友達のことを交換して本当に勉強になりました。
- ・違う時代の歴史も茅ヶ崎から見てみたいと思った。

地域の農村でも日本の歴史と同じような貧富の差が広がっていることに気づき、歴史を身近に感じられるようになったという自由記述により、地域の歴史と日本の歴史を関連付けて考えるという新しい歴史観を得たのではないかと考えられる。また、農民の姿を新たなイメージで捉えたり、角度を変えた視点から貧富の差を考えたりする記述もあった。これは、地域の教材を通じて、歴史的な事象を掘り下げ因果関係を知ること、新たな疑問を抱き、探究心を芽生えさせたのでは

ないかと読み取れる。

以上のアンケートと自由記述の分析から、空間的な広がり観点からの教材開発と指導方法を工夫した授業実践は、地域の歴史を身近に感じさせ、日本の歴史との関連を広い視野で考察するきっかけになったと考えられる。

5 今後の課題

本研究では、地域の伝統・文化の学習の入り口として、副読本などを活用しながら、身近な地域にどのような歴史や伝統・文化があるかを認識させた。そして、歴史的分野で扱う学習内容と関連付けた地域教材の開発により、地域の歴史や伝統・文化に対する意識を変える授業を展開した。今後は、他教科の学習内容や総合的な学習の時間との連携を図りながら、地域の伝統・文化に関する具体的な事物に直接出会い、生徒が主体的に探究する機会をつくることが課題である。

一方、伝統・文化に関する学習の小・中学校における接続も課題である。所属校でのアンケートに答えた生徒たちの小学校での学びの様子を知るために、出身小学校を訪問した。3年生社会科における成果発表を参観し、担当教諭から話を伺った。学習内容は、児童が学区内でフィールドワークを行い、発見した疑問を個人で調べ、班ごとに発表するものであった。このように、小学校では各学年で地域学習を行い、地域教材を学習内容と関連付け、時間をかけて丁寧に取り組んでいた。こうした学習経験を生かし、中学校社会科において、小学校での学習内容や学習方法を活用した教材開発を行うことも考えられる。

今回は、茅ヶ崎の伝統・文化による教材開発に取り組んだ。今後は、「かながわ教育ビジョン」に示されている「かながわの魅力にもとづく『かながわ学』の発信」に資する学校教育の取り組みを、学校、地域の双方で探っていく必要がある。その一例として、歴史的分野で扱う学習内容と関連付けた県内の伝統・文化に関する教材として考えられるものを第1表に示した。

第1表 神奈川県内の伝統・文化に関する一例

伝統・文化名	関連付ける単元
授業のテーマ	
流鏑馬 (鎌倉市)	鎌倉時代のくらしと文化 どのような背景で流鏑馬が始まったのだろうか。
大風まつり (座間市・相模原市)	生活文化のひろまり どのような背景で大風あげが始まったのだろうか。
国府祭 (大磯町)	律令国家の成立 相模の国府はどこにあったのだろうか。
相模人形芝居下中座 (小田原市)	天保の改革 ぜいたくや派手な振る舞いが制限される中で、相模人形芝居はどうなっていたのだろうか。

おわりに

新学習指導要領の移行期にある今日、中学校における三年間の社会科学習を検討し、各分野のねらいや特質に応じて、伝統や文化に関する単元設定の取組みが必要である。本研究では、歴史的分野での地域の教材開発を行い、伝統・文化への関心を高め、広い視野で歴史を考察する力の育成を目指した。その主眼は、伝統・文化の受容や共存の態度を養うことである。地理的分野においては、身近な地域の調査を通して、地域の特色ある事象についての理解を深めていくこと、公民的分野では、文化の継承と創造の意義に気付かせていくことがねらいとなる。伝統・文化に関する学習を充実させるために、各分野の有機的な関連を図り、三年間の見通しをもちながら、地域の伝統・文化に関する教材開発を今後も行っていきたい。

引用文献

中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について (答申)」 p. 9

文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 p. 17

山内久実 2008 「ふるさとの宝を探そう！伝えよう！」(有田和正編・解説 山口GENKI教育サークル著『社会科で育てる新しい学力2 伝統・文化の継承と発展』明治図書) p. 57

有田和正 2006 『有田和正の授業力アップ入門』明治図書 pp. 72-74

参考文献

神奈川県教育委員会 2007 「かながわ教育ビジョン」

文部省 1978 『中学校指導書 社会編』大阪書籍

詫間克久 2005 「地域教材を活用した中学校社会科カリキュラムの工夫－置籍校のカリキュラム作成を通して－」(『拓く 平成16年度 研修生研修報告書』香川県教育センター) (<http://www.kec.kagawa-edu.jp/curriculum/houkoku/hiraku/h16/2004c024-001.pdf> (2010. 4. 13取得))

中村哲編 2009 『伝統や文化に関する教育の充実－その方策と実践事例－』教育開発研究所

岩田一彦・米田豊 2009 『中学校社会科「新教材」授業設計プラン』明治図書

北俊夫編 2003 『新社会科の発展教材&面白調べ活動－基礎・基本にプラスするプロの技－ 小学3・4年編』明治図書